



2025年 8月25日
第032号

JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一

編集 情宣 担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



イーハトーブ

8月25日号

7月30日、ロシア・カムチャツカ半島南東沖でマグニチュード8.8とされる巨大地震が発生し、日本でも太平洋側を中心に津波警報と避難指示が発令された。避難中の事故などにより死者や10名の重軽傷者が出るなどした。テレビ報道では、日本地図の太平洋側が津波警報区域となり赤々と示され「津波が来ます。高台に逃げてください」と繰り返し叫ばれた。

さて、多くの方はこの瞬間に何を考えてどう行動したのだろうか。筆者は日頃、乗務員として横須賀線を担当線区としており、休日であった当日は現地でどのような対応をされているか気がかりであった。

後日、避難指示が発令された鎌倉駅に停車していた電車の乗務員に話を聞くことができた。「津波警報や避難指示の発令を知り得たのは、乗車していた旅客の携帯電話から発信されている警報音がきっかけであった」「自分が地震による揺れを感じていないので正直躊躇した」「旅客も含め、指示を出す指令員からもその緊張感を感じることができなかった」と。

筆者は2011年、あの東日本大震災を経験し防災士の資格を取得した。その講義の中で、「防災士は救助する者で、救助される側にならない為に」という「自助」の考えと、「正常性バイアス」について学ぶことができた。「正常性バイアス」とは、誰にでも起こりうる心理現象であり、異常事態を正常な範囲内と捉え、冷静を装おうとする心理的な傾向のことであり、災害などの緊急時に事態を過小評価して適切な行動を遅らせる原因にもなる。具体的には、避難指示などが出ている状況でも、「自分は大丈夫だろう」と判断して避難しないなどが挙げられる。

私たちが暮らす日本は地震大国であり、今後も南海トラフ巨大地震や首都直下地震などの発生が懸念されている。阪神・淡路大震災や東日本大震災での教訓は何だったのか。日頃から防災意識を高め、備える事が重要である。

(K・K)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちも外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。